

「十字架による真の平和」  
ルカによる福音書 23 章 32-43 節

2022.4.10

●アウトライン

1. 十字架による罪の赦し

- ・ イエス・キリストの十字架での祈り
- ・ なぜキリストの祈りの言葉は括弧書きなのか。
- ・ 十字架刑に示される神の裁きと滅びの死
- ・ 神は真心から自分の罪を悔い改め、イエス・キリストに依り頼む者に、罪の赦しと永遠の命を与えてくださる。

2. 十字架による真の平和

- ・ キリストの十字架は、私たちの罪の赦しのためだけではなく、私たちの罪を取り除くためにもある。
- ・ 自分が何をしているのか分からない、罪の恐ろしさ
- ・ 私たちの心の傷をいやす十字架の愛

●聖書箇所

【ローマの信徒への手紙 7 章 15-19,24 節、新約聖書 283 ページ】

「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。……わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。」

【イザヤ書 53 章 4-6 節、旧約聖書 1149-1150 ページ】

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。」

**【マタイによる福音書 5 章 9 節、新約聖書 6 ページ】**

「平和を実現する人々は、幸いである、／その人たちは神の子と呼ばれる。」